

同窓会会報

高知県立大学看護学部

第29号

令和6年12月20日発行

〒781-8515 高知市池2751-1



ごあいさつ

同窓会副会長 大川 宣容

冬晴れが心地よい師走の候、同窓生の皆さまいかがお過ごしでしょうか。

私は、今年4月より看護学部長として新たな役割を担うこととなり、併せて副会長として同窓会活動にも尽力させていただくこととなりました。この半年取り組む中で、諸先生方、諸先輩方のお力で受け継がれてきたものの重さを実感しています。

能登半島を襲った地震に加えて、9月に起こった豪雨災害は、社会に大きな衝撃を与えました。一日も早い復興と被災された皆さまの回復を心よりお祈りいたします。また、世界各地での戦禍や困難な状況に心を痛めつつ、平和と安定を願わずにはいられません。

そのような中、学生たちは同窓会の支援を受けて、能登半島での災害ボランティア活動、インドネシアのガジャマダ大学での短期研修など、パンデミックの影響で一時中断していた活動を本格的に再開させています。これらの活動に同窓会の多大な支援をいただいておりますこと、この場を借りてお礼申し上げます。

大学では、これまで本学が取り組んできた地域志向の教育・研究を大切にしつつ、デジタル化の推進、データサイエンス教育の充実、研究成果を社会実装につなげる取り組みも進行中です。看護学部におきましても、新しい時代に対応し、看護学の教育・研究を通じて社会に貢献できる体制を整えていきたいと考えております。同窓生の皆さまとも、新たな形でつながる方法を模索するなどを通して、交流の機会が増えることを心より願っております。

高知女子大学看護学会は50年の節目を迎え、高知県立大学看護学会へと名称を変更しました。令和7年度には50周年をお祝いする会を共に開催する予定です。今後とも同窓生の皆さまとの絆を大切にしつつ、様々な活動を拡げていきたいと考えております。皆さまのご健康とご多幸をお祈りし、引き続き同窓会活動へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



主な内容

- ① 同窓会副会長ごあいさつ
- ② 令和6年度同窓会総会報告
- ③ 南裕子先生「瑞宝中綬章」受章のお祝い
- ④ 中野綾美先生ごあいさつ
- ⑤ 中野綾美先生へのメッセージ
- ⑥ 幅広い領域で活躍する修了生・活動支援報告
- ⑦ 第50回高知女子大学看護学会報告
- ⑧ 看護開発研究会



令和6年度 同窓会総会報告

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)感染拡大防止と会員の皆様の健康と安全面への配慮から、令和6年度
の同窓会総会の対面での開催を中止し、文書(議決書)送付による総会とし、議案賛否のお返事をいただく形としま
した。その結果のご報告を致します。下記の3点の審議事項につきまして、賛成多数にて、承認いただきました。審
議などへのご協力、誠にありがとうございました。

議事次第

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1) 報告事項 | 2) 審議事項 |
| (1) 令和5年度活動報告 | (1) 令和6年度活動計画案 |
| (2) 令和5年度決算報告 | (2) 令和6年度予算案 |
| (3) 令和5年度会計監査報告 | (3) 令和6年度同窓会役員について |

令和5年度活動報告

1. 会議の開催
 - 1) 総会の開催
 - 2) 役員会の開催
2. 事業および活動
 - 1) 講演会の開催
 - 2) 懇親会 中止
 - 3) 会報発行
 - 4) 高知女子大学看護学会への活動支援
 - 5) 学生及び同窓生活動への支援
 - 6) 給付型特別奨学金の給付
 - 7) 緊急奨学金貸与
 - 8) ネットワーク強化

令和6年度活動計画

1. 会議の開催
 - 1) 総会の開催
 - 2) 役員会の開催
2. 事業および活動
 - 1) 講演会の開催
 - 2) 懇親会の開催
 - 3) 会報発行
 - 4) 学生支援、同窓生活動支援
 - 5) 高知女子大学看護学会への活動支援
 - 6) 給付型特別奨学金

※¹:看護学部長
※²:看護学会名簿管理係兼

同窓会役員名簿(令和6年度)

役員名	氏名	卒業・修了期	所属
会長	中山洋子	16期生	文京学院大学看護学研究科
副会長	中野綾美	27期生	高知県立大学看護学部
	大川宣容※ ¹	35期生	高知県立大学看護学部
書記	田鍋雅子	38期生・修士13期生・博士18期生	高知医療センター看護局
	山中福子	修士7期生	高知県立大学看護学部
会計	川上理子	35期生・博士9期生	高知県立大学看護学部
	西内舞里	46期生・修士12期生	高知県立大学看護学部
会計監査	野田真由美	34期生	
	矢野智恵	38期生・修士1期生	高知学園短期大学
庶務	角谷広子	25期生・修士5期生	
	池添志乃	34期生・修士2期生・博士1期生	高知県立大学看護学部
	池内 香※ ²	51期生・修士12期生	高知県立大学看護学部

令和5年度 会計報告

令和5年度 高知県立大学看護学部同窓会決算報告
(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

収入の部

費目	予算額	決算額	差引	備考
前年度繰り越し	13,260,766	13,260,766	0	
令和5年度終身会費	1,500,000	1,395,000	△105,000	令和5年度卒2名のうち78名(95.1%) 新年度大学院生(前期10名)のうち19名納入(100.0%) 前年度まで未納等の学部生・大学院生等:2名
寄付金	200,000	69,166	△130,834	延べ10名
奨学金返済	0	0	0	
利息	65	69	4	
合 計	14,960,831	14,725,001	△235,830	

支出の部

費目	予算額	決算額	差引	備考
会議費	30,000	1,722	28,278	役員会等
同窓会会報発行費	440,000	440,000	0	会報発行2回
高知女子大学看護学会支援費	300,000	300,000	0	高知女子大学看護学会への活動支援費
同窓会総会・懇親会運営費	0	0	0	令和5年度同窓会総会・懇親会運営方法の変更
学生および同窓生活動支援費(1件20万円以内)	600,000	400,908	199,092	①4学年交流会:¥63,408 ②第30回日本家族看護学会広告:¥38,500 ③手話サークル講演会サポート:¥100,000 ④卒業生記念品:¥199,000
緊急奨学金費	535,800	0	535,800	
給付型特別奨学金費	3,000,000	100,000	2,900,000	1人¥100,000×3回生1名
小 計	4,905,800	1,242,630	3,663,170	
役務費	400,000	531,752	△131,752	郵送料、振込手数料、ホームページ管理費等
印刷費	200,000	107,800	92,200	封筒印刷
消耗品費	1,100,000	30,254	1,069,746	事務用品、A4用紙、宛名シール等
報償費	200,000	51,600	148,400	名簿管理、書類発送に関するアルバイト料等
小 計	1,900,000	721,406	1,178,594	
予備費	8,155,031	0	8,155,031	
合 計	14,960,831	1,964,036	12,996,795	

令和6年度への繰り越し金＝収入の決算額 14,725,001円 - 支出の決算額 1,964,036円 = 12,760,965円

監査報告書

高知県立大学看護学部同窓会会長 様

監査期間 令和5年4月1日～令和6年3月31日

監査結果 証憑書類並びに諸帳簿を資料として監査を実施した結果、正確かつ適正に処理されていることを認めます。

令和 6年 5月13日

会計監査

野田 真由美
矢野 智恵

令和6年度 予算案

令和6年度 高知県立大学看護学部同窓会予算案
(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

収入の部

費目	予算額	備考
前年度繰り越し	12,760,965	令和6年度在学生(学部、大学院)の終身会費を含む
令和6年度会費	1,500,000	15,000円×100名＝1,500,000円 学部生:80名 大学院生:20名(博士前期課程17名、博士後期課程3名)
寄付金	200,000	1口1,000円×200口
奨学金返済	0	
利息	65	
収入合計	14,461,030	

支出の部

費目	予算額	備考
会議費	30,000	役員会等
同窓会会報発行費	440,000	会報発行2回
高知女子大学看護学会支援費	300,000	高知女子大学看護学会への活動支援費
同窓会総会・懇親会運営費	0	会場費、運営費等
学生および同窓生活動支援費	600,000	1件あたり上限20万円
緊急奨学金費	535,800	1年間1人分の学費として
給付型特別奨学金費	2,000,000	1件あたり10万円(R2.3.4.5年度予算¥3,000,000) R2年度:5名、R3年度:3名、R4年度:0名、R5年度:1名
役務費	1,200,000	郵送料、切手、はがき代、ホームページ管理費 同窓会名簿管理システム構築(¥650,000)等
印刷費	200,000	封筒印刷等
消耗品費	100,000	事務用品、A4用紙、宛名シール等
報償費	200,000	書類発送に関するアルバイト料等
予備費	8,855,230	
支出合計	14,461,030	

看護学部は今

7月27日(土)に高知県立大学オープンキャンパスが行われました。オープンキャンパスは、大学やその学部に興味を持つ方に向けて大学内を見て、関心を深めていただくことを目的に毎年開催しています。今年はあいにくのお天気でしたが、看護学部には、431名の方にご来場いただきました。

当日は学部説明会をはじめ、教員による模擬講義、学部生による学生相談コーナーや看護体験コーナーなど様々なブースで、本学看護学部の魅力をお伝えする機会となりました。



南裕子先生「瑞宝中綬章」の受章のお祝い

南裕子先生、「瑞宝中綬章」の受章、おめでとうございます。

高知県立大学初代学長であり、看護学部同窓会の初代会長である南裕子先生が、令和6年春に長年の教育功労により「瑞宝中綬章」を受章されました。受章をお祝いする「南裕子先生の叙勲をお祝いする会」は、2024年6月9日に、ホテルオークラ神戸で行われ、高知県立大学からも、野嶋佐由美前学長をはじめ、関係する先生方が出席いたしました。

瑞宝章は、明治21年に制定された勲章で、公務等に長年にわたり従事し、成績を上げた方に授与されるものです。下記の経歴を見ていただければ分かりますが、南先生は、これまでに兵庫県立看護大学や高知県立大学等、4つの大学の学長を歴任し、国際看護師協会および日本看護協会の会長を担ってきました。南先生の功績に対しては、フローレンス・ナイチンゲール記章等、数々の賞が授与されてきました。日本の看護界の発展に多大な貢献をしてきた南先生でしたが、日本の叙勲は遅かったようにも思います。それは、大学教員が授与されるためには、国公立大学で30年以上の勤務歴が必要で、この基準に満たなかったためということです。高知県立大学には、学長としてだけではなく、高知女子大学家政学部衛生看護学科の時代にも、助手や講師、助教授として勤務したご経歴があります。高知女子大学家政学部衛生看護学科11期生の南先生の今回の受賞を、同級生、同窓生、南先生の教え子と一緒に仕事をされた同僚の方など、様々な立場の皆様と喜びを分かち合うことができればと思います。

「生涯現役」という言葉がふさわしい南先生、先生のご健康とますますのご活躍をお祈りいたします。



高知県立大学
看護学部同窓会・看護学部一同



南 裕子 先生 ご紹介

学歴

高知女子大学家政学部衛生看護学科卒業
イスラエル国ヘブライ大学ハサダ医学部社会医療学科
修士課程修了
アメリカ合衆国カリフォルニア大学サンフランシスコ校
看護学部博士課程修了

職歴

横浜市民病院看護婦(1965)
高知女子大学家政学部衛生看護学科助手(1970)
講師(1973)助教授(1974)
聖路加看護大学看護学部教授(1982)
兵庫県立看護大学学長(1993)
兵庫県立大学副学長・教授(2004)
近大姫路大学学長(2008)

高知県立大学学長(2011－2017)
高知県立大学名誉教授
神戸市看護大学学長(2019-2023)

主な社会的貢献など

(社)日本看護協会会長
国際看護師協会会長
日本災害看護学会理事長、副理事長
日本看護科学学会理事、理事長、監事
世界看護科学学会理事長

受賞歴・称号等

第43回フローレンス・ナイチンゲール記章(2011)
など多数



増野 園恵先生(兵庫県立大学 地域ケア開発研究所 教授)

南裕子先生の瑞宝中綬章ご受章、心よりお祝い申し上げます。
先生の長年にわたる看護教育への多大なる貢献、そして看護学の発展に尽力されたご功績に、深く敬意を表します。

修士課程で先生から直接ご指導いただき、教員としても教育・研究等の場で一緒させていただいた経験は、私にとって何よりの財産です。南先生は常に学問に対して真摯であり、探究心を絶やすことなく、看護の発展に情熱を注いでくださいました。その姿勢は周りの者に深い感銘を与え、研究や教育への意欲を高めてくれる存在です。国内外の看護リーダーからも広く支持され、尊敬される先生のご指導の下で学べたことは、私にとって誇りであり、これからもその教えを胸に精進してまいります。

今後のますますのご活躍を祈念し、心より感謝と敬意を込めて、改めてお祝い申し上げます。



山田 寛先生(高知県立大学大学院看護学研究科 特任教授)

南裕子先生「瑞宝中綬章」の受章のお祝い「南先生との災害看護活動」

南裕子先生、瑞宝中綬章の受章、おめでとうございます。

私は看護ではない分野の出身ですが、本学に赴任する前年、看護系大学で非常勤講師をしていた授業で、高知女子大学は南裕子先生という看護界の著名な方を輩出した大学だと、社会人入学の学生から聞いたことを思い出します。歴史と伝統のある大学であることは存じていましたが、看護界のリーダーが卒業された大学で勤務できることを誇りに思っていました。

私は赴任した平成10年の秋、高知'98豪雨水害に遭遇し、災害看護に関わることになりました。その二ヶ月後、南先生を中心に日本災害看護学会が発足し、翌年の7月には第一回の日本災害看護学会が南先生を大会長として明石市で開催されました。前年に高知で水害を経験した私は、自然の流れとして当該学会に参加し、災害看護の活動を本格的に開始することとなりました。まずは、南先生の科学研究のメンバーに加えていただき、学術研究を進めると共に、学会活動としては南理事長の下、高知での第6回日本災害看護学会大会長、副理事長を経験させていただきました。理事長の南先生は国際看護師協会の会長として度々スイスのジュネーブに出張されていたので、留守番役として日本で大きな災害が起こらないことを願う日々が続きました。この間、南先生は世界災害看護学会を創設され、災害看護の世界のトップリーダーとなられ、日本ではそれまで築かれた災害看護の基盤を踏まえ、日本初の国公私立5大学による災害看護グローバルリーダー養成5年一貫博士課程(DNGL)を国に提案・採択されました。私は、現在もDNGLの教員として教壇に立っておりますが、様々な視点から災害看護に関わらせていただいたことを心から感謝しております。



中野綾美先生(27期生) ごあいさつ キャンパスで過ごした日々 母校への感謝



令和6年3月末日に定年退職を迎えました。学生時代の4年間、教員として37年間高知女子大学・高知県立大学のキャンパスで過ごしてきました。同窓生の皆様、大学関係者の皆様からのご支援に心から感謝申し上げます。振り返ってみると、毎年、4月に新入生をお迎えして、「みなさんの先輩です。ちょっと前に高知に来ました。」と自己紹介しているうちに、月日が経ったことに驚いています。私は、兵庫医科大学病院の脳神経外科・麻酔科の混合病棟で看護師としてスタートしました。3年目が終わるころ、山崎智子先生から、「助手で帰ってくる？」とお電話をいただき、「女子大に帰れる!」と思って、高知に帰ってきました。山崎智子先生「あっちに伸びたい枝をチョキン! こっちに伸びたい枝をチョキン!みんな同じにしていけないかね?」、山崎美恵子先生「学生は、在学中だけじゃないから。

卒業/修了してから伸びていくから。」、野嶋佐由美先生「学生に理解しやすい内容だけを教えるのは違う。難しくても看護学を教える。研究をしよう。」、私が心に刻んでいる先生方の言葉です。一人一人の学生の持つ力・特性・意思を見極め育てる教育、卒業/修了後も関わり続けることの大切さ、看護の理念や専門的知識・技術、ヒューマニズムを礎に10年後・20年後の看護を構築していく力を育てる教育、女子大時代から脈々と続いています。学生/院生の成長は目覚ましく、卒業/修了後、自分の道を切り拓いて、様々な場で力を発揮されている逞しい姿は、誇りです。教員として母校に身を置きながら、大学院博士後期課程で学ぶ研鑽の機会をいただきました。当時の同僚の先生方のご協力、ご支援があったからこそ実現したことです。学位取得まで支えてくださった先生方に心から感謝し、微力ながら「貢献しなくては!」という思いで、仕事をしてきました。南裕子先生、野嶋佐由美先生のもと、看護学部長、看護学研究科長、副学長を拝命した際には、教育を中心とした内部質保障の仕組みづくりと推進、地域志向教育の強化、実践志向の教育―看護実践能力の育成、外部資金を獲得した研究活動の推進に、先生方と力を合わせて取り組みました。看護学部・看護学研究科の強み・特徴は、独自の委員会を組織し、PDCAサイクルを回しながら、教育・研究・地域連携活動を展開していることです。また、第一線で活躍されている同窓生が大学院や学部の非常勤講師としてご尽力くださっていること、学部・大学院生の実習の受入れや看護実践力を高める支援、研究活動への支援をいただいていることなど、多くの同窓生が参画してくださっていることも強み・特徴だと思います。特に、隣接する高知医療センターとの「看護連携型ユニフィケーション」は、「包括的連携事業」へと発展し、歴代の同窓生の看護局長と多くの卒業生・修了生と看護学部教員が協働して、看護教育・看護実践の質の向上をめざして、様々な事業を展開しています。私の専門分野は、小児看護学です。日本小児看護学会の倫理委員会の委員長として活動した際に、「小児看護の日常的な臨床場面における倫理的課題に関する指針」「子どものエンドオブライフケア指針」「子どもを対象とする看護研究に関する倫理指針」などを作成し、啓発活動を行いました。この活動を通して、子どもや家族を対象とした倫理的課題に関する研究テーマに取り組むようになりました。現在は、看護学研究科特任教授として院生の方々と時間や先生方・修了生と倫理的課題についての研究活動を楽しんでいます。

これからは同窓生の一人として、長年の努力で培ってきた財産である高知県立大学看護学部同窓会の活動や高知県立大学看護学会の活動に参加し、同窓生のネットワークづくりに取り組み、母校の発展を応援したいと思っています。

長い間、大変お世話になりました。徒然なるままに、キャンパスで過ごした日々を振り返り、同窓生の皆様と母校への感謝を込めて。



中野綾美先生へのメッセージ

岡田佳代(宇田)さん 坪井晶子(渡邊)さん(54期生)

定年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。長年に渡りご指導いただき、ありがとうございました。子どもたちへの愛に溢れ、クレヨンしんちゃんを題材にした授業が、今でも思い出に残っています。私たちが4回生の学年担当として、ひとりひとりに親身になって向き合い、卒業後の進路の決定にご助言いただきました。卒業後も研究室を訪ねると、学生の頃と変わらぬ包み込む笑顔で迎えてくださり、近況を聞いてくださり、暖かく優しいお言葉をいただき、仕事に向かう活力となりました。

「子どもは自分で決定できなくても、その場に参加して意見を言いたいと願っている」、子育てをしながら、保健師として多くの子どもたちに関わる今、先生からいただいたこの言葉を胸に、これからも日々励んでいきたいと思ひます。改めまして、この度は本当におめでとうございます。今後のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

＜写真＞左：岡田さん 右：坪井さん



益守かづきさん(33期生) 中野綾美先生からの贈り物

中野綾美先生、大変長い間、小児看護教育や看護研究など看護における多彩な状況に携わってこられて、本当にお疲れ様でした。中野綾美先生との出会いは、大学2年の時でした。もうかなり昔のことですが、脳外科の患者さんへの看護についてご教授いただいたと記憶しています。また、学生として演習や実習で大変お世話になっただけでなく、私が教員として第一歩を踏み出したときに一番近くで支援していただきました。学生さんの記録物に直接コメントを記入することもできないなど(この時はポストイットに記入したものを中野先生に添削してもらった後にコメントとして清書していました)、何をするにも自信がないときに、一つひとつ丁寧にかつ的確にご指導いただきました(その頃病棟で中野先生を一番追いかけていたのは学生さんではなく、私だったかもしれません)。中野先生の研究室に伺うと、いろいろな話を聞いてもらえるという雰囲気があり、1日の最後には必ずと言っていいほど訪室していました。一緒にいた約18年間の中でいただいた支援の形は多様に変化しましたが、私が久留米に移動するまで毎日のように継続され、その後もいろいろと気遣っていただきました。私が、学生さんとかかわりの中で面白さや充実感を見出し、教育現場に在ることを選択したのは、中野先生からの贈り物のおかげだと思っています。中野先生からいただいたものを後輩に伝えられるように艱苦奮闘したいと思います。

中野綾美先生、本当にありがとうございました。

＜写真＞中野先生の右：益守かづきさん



石浦光世さん(40期生)



中野先生、定年ご退官、心からお祝い申し上げます。中野先生との出会いは大学生の小児看護学に関する授業からで、臨地実習を通してこどものもつ力に後押しされた私は、先生のはじめてのゼミ生として小児の看護研究に取り組みました。その時から長くご指導いただき、今日に至っています。先生は「常に研究を楽しむ」ことを信念としており、大学生の時には研究に協力してくださったこどもの語りの一つ一つの意味を大切にさまざまな切り口から分析を繰り返し、一つの研究を仕上げていく道筋を丁寧に熱意をもって導いていただきました。修士課程に進学した際にも臨地実習、研究と全力指導でいつも常に真摯に向き合ってご指導いただいたことが、修了後の臨床実践における原動力となりました。その後も小児看護に関連する研究や学会委員会活動等に参加させていただき、病気や障害のあるこどもへの看護の質の向上につながる指針等を作り上げるプロセスにおいて、先生の全体を俯瞰する力や物事の本質を捉える力から多くの示唆をいただきました。これまでのご指導に厚くお礼申し上げますと共に、これからの益々のご活躍をお祈り申し上げます。

笹山睦美さん(修士14期生)



中野先生、定年退職、誠にありがとうございます。永年にわたり教育や研究、小児看護学の充実・発展にご尽力され、研究室を訪ねるといつも笑顔で迎え入れてくださっていた中野先生が、定年退職を迎えられたことに驚きを隠せません。

定年退職をお祝いし感謝する会は、全国各地の卒業生や修了生から届いたビデオレターの上映や、吉川先生からの熱いメッセージが届けられるなど、とてもアットホームな雰囲気であらためて中野先生のお人柄を感じる機会となりました。中野先生とたくさんの卒業生や修了生の笑顔が溢れたビデオレターをみていると、わたしたちまで自然と笑顔に溢れ、日々の授業や修士論文のなかでつまづいては悩むわたしに、中野先生が高らかにこぶしを突き上げ「エイエイオー」と鼓舞してくださった院生時代を思い出しました。この場をお借りしまして、ご在任中、ひとかたならぬ厚情とご指導を賜りましたこと、深く感謝いたします。加えて、小児看護領域で看護実践を積み重ねていく者として、中野先生からまだまだ学びたいことがたくさんあります。今後もこれまでと変わらないご指導をお願いしますと同時に、中野先生の益々のご健康とご活躍を御祈りいたします。

＜写真＞2列目左から2番目：笹山睦美さん

幅広い領域で活躍する修了生

二宮園美さん(修士18期生)
公益社団法人兵庫県看護協会 神戸訪問看護ステーション



私が初めて高知県立大学の門をくぐったのは、大学院入学試験当日でした。突然、在宅看護学領域に応募してきたのはどんな人だろうと、その後私のかけがえのない恩師となる、面接官であった森下安子先生(当時在宅看護学教授)は思っていたに違いありません。

私は当時、兵庫県で訪問看護認定看護師として訪問看護ステーションに勤務していました。しかし、もう一段看護の学びを深めるために在宅看護専門看護師になりたいと考え、兵庫県立大学か大阪府立大学(当時)のどちらで学ぶのがよいか、共同研究をしていた新井香奈子先生(現 滋賀県立大学人間看護学部教授)へ相談したところ、「同じ大学院の2年間を過ごすなら、ご家族が許すのであれば高知県立大学が一番いいと思う」と強く推薦されたことが、私の人生の分岐点になったと言っても過言ではありません。

大学院の勉強は大変でしたが、在宅看護学領域の先生方をはじめ、諸先生方や同級生、先輩の方々の支えは勿論のこと、校風、土地柄、食べ物、空気、明確には分類できないその何もかもが私には心地よく、思い切って高知へ来て良かったと心から思いました。

また、専門看護師となった後、ある学会で他大学の先生方と交流していた時に出身大学を聞かれる場面があり、高知県立大学のCNSコースだと答えると「元高知女子大でしょ。いい大学ですね。看護の礎を作った人たちは皆高知女子大よ」と言われ、自分が褒められたように嬉しく思い、たった2年間しか在学していなかったにもかかわらず、私の中の母校への誇りと愛着が更に増していきました。

2020年から所長として現職場へ異動しました。職員、利用者、関係機関との関係を一から構築していくことと同時に、神戸市で猛威を振るい医療崩壊状態となった新型コロナウイルスの対応もあり、試練の連続、試行錯誤の繰り返しでした。しかし、その時に思い出されたのは大学院での学びであり、つながっていたのは在宅看護領域の先生方や先輩方でした。今は、母校の学生の臨地実習先となり、後輩となる学生が来所されることだけでなく、学生指導のために遠路から来られる先生方にお目にかかることが楽しみになっています。大学院卒業から7年経ちましたが、私が看護の本質に立ち返って考える土台は大学院での学びであり、これからも母校とのつながりが続くことで支えられながら、仕事に邁進していきたいと思っています。

同窓会による学生・卒業生活動支援

2024年6月29日・30日、日本老年看護学会第29回学術集会を高知市文化プラザかるぼーとにて開催させていただきました。全国から1546名の高齢者医療やケアに関わる方たちに参加していただき、盛会に終了することができました。

高知県は、高齢化率35.9%(2021年)と全国で2番目に高く、高齢化率の上昇は全国に10年先行し、人口の自然減は全国に15年先行して進んでいます。高知県が直面している課題は、近い将来、どの地域においても訪れる課題です。これらの課題に対して「日本一の健康長寿県構想」を策定し、「県民の誰もが住み慣れた地域で、健やかで心豊かに安心して暮らし続けることのできる高知県」の実現を目指し、様々な取り組みが進められています。同時に老年看護として大切にしてきたコアとなるものを次世代に引き継いでいかなければなりません。そこで、学会のテーマを様々な意味を含む「しんか」を取り上げ、「老年看護のしんかー進化・深化・真価ー」としました。テーマであるそれぞれの進化・深化・真価に対して、特別講演や教育セミナー、シンポジウムなどを企画し、演題(口演・ポスター)も154題発表していただきました。2日間を通して、それぞれの「しんか」について参加された皆様考える機会になったのではないかと思います。



新型コロナウイルス感染症も5類となり、完全対面で学術集会を開催することに決めましたが、開催当日まで全国の感染状況なども気になりながらでしたが、久しぶりに対面でいろいろな方にお会いしディスカッションでき、参加された皆様が生き生きとした顔をされていたことがとても印象的でした。私自身も参加者との交流で多くのエネルギーをもらいました。高知県では天寿を全うすることを「満てる」と言います。高齢者の方が住み慣れた地域でその人らしく過ごし、満てることを目指し、これからも老年看護に取り組んでいきたいと思っています。

最後になりましたが、学会開催においては同窓会より抄録集への広告協賛、また同窓生の皆様方には演題発表や学会参加をいただきましたこと、この場をお借りして御礼申し上げます。

社会医療法人近森会 統括看護部長／老人看護専門看護師
岡本充子(修士1期)

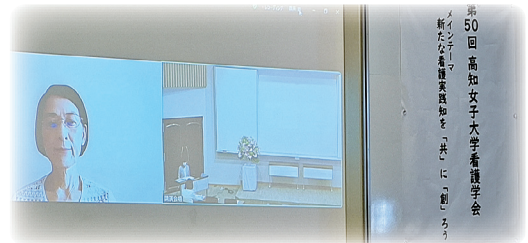
第50回 高知女子大学 看護学会報告

令和6年7月20日(土)10時～16時、「新たな看護実践知を『共』に『創』ろう」をメインテーマに、第50回高知女子大学看護学会を開催しました。健康課題が複雑性を増し、人々の健康ニーズは多様化している現代にあつて、看護専門職者には多様な立場の関係者とも対話しながら、看護の既存の枠組みを越え、新たなケアを共に創り上げていくことが求められています。新たな看護実践知の創造を「共創」という視点から考える機会として、講演と5つのワークショップ、そして今年度はリレートークを企画しました。今年度も対面とオンラインのハイブリッド開催とし、全国各地から114名の方々にご参加いただきました。高知女子大学看護学会は、学際性をもった学びの場であると同時に、同窓生との再開や交流の機会にもなっています。今回も、同じ学び舎で学んだ同窓生と、新たに学会に関心をもっていただいた方たちが、相互に自己研鑽し合う機会となりました。

午前中は、近畿大学医学部・病院運営本部 看護学部設置準備室 教授の小松浩子先生を講師にお迎えして、「共に創る健康生成：看護の視座から発展を考える」というテーマでご講演いただきました。

まず、「共創」という概念の考え方や保健医療分野における共創について、国内外の知見を交えてご説明いただき、先生が実践・研究・教育を通してチャレンジしてこられた「共創」についてご紹介いただきました。近年、共創という概念は様々な分野で活用されていますが、保健医療分野での考え方には、当事者や地域の人々がつながり、協働することを通して健康や幸福を高めることが含まれており、当事者の価値観を中心に置きながら、より良いケアの実現に向けて社会的相互関係を深めていくことが重要であることを示していただきました。また、先生が取り組んでこられた「共創」を目指した新たなケア開発や実装として、乳がん女性のためのサポートプログラムの開発、百寿社会における医療などについてご説明いただき、当事者の視点からスタートし、文化や価値観を醸成しながら新たなケアを創成していくプロセスと方略を学ぶ機会となりました。

ご参加の皆様の声をお寄せいただいたアンケートの結果では、「共創についての基本的な考えから、今後の展望を考えることができました」、「看護がもつ力が当事者の潜在的な力の発揮に貢献するような活動を行っていききたいと思った」といったご意見があり、改めて共創の概念に触れて、当事者の理解を深めることや、当事者がもつ力を引き出す看護の重要性について、それぞれの立場で考えるきっかけとなったようでした。



午後はまず、4名のスピーカーによるリレートークを行いました。野嶋佐由美先生からは、看護専門職者、教育・研究者としての自身の歩みを踏まえて、新たな看護の知の創造・発展に関する提言をいただきました。藤田佐和先生からは、高知県立大学看護学部・看護学研究科の歩みを踏まえ、さらなる知の創造をめざして、実績の言語化・可視化に関する提言がありました。



また、小澤若菜先生からは「共に創り」「共に育つ」高知県保健師人材育成の取り組みについて、岩崎順子先生からは看護研究を通した看護実践知創出への歩みについての紹介がありました。

参加者アンケートでのご感想からは、先生方の熱い思いが伝わる楽しいセッションとなり、それぞれの考えや取り組みを知ること、視野を広げたり刺激を受けたりしたことがうかがえました。

リレートークの後は、様々な場での共創を取り上げた5つのワークショップを開催し、話題提供をもとに参加者が意見交換を行いました。

高知女子大学看護学会は50回目の節目を迎え、“高知県立大学看護学会”へ名称変更することが総会で決定しました。“高知女子大学看護学会”としての開催は今年が最後となりましたが、相互理解と協働による共創の考え方や新たな看護の知の創造にチャレンジする姿勢など、学会の新たなスタートにエネルギーをいただいた内容となりました。

ワークショップ

＜ワークショップ1＞

病気や障がいのある子どもと家族を支える
子どもホスピスの創造

病気や障がいのある子どもと家族を支えるために「子どもホスピス」の開設を目指し、医療・看護だけではなく、異業種の方と新たなケアを「共」に「創」る取り組みを継続されている濱田裕子氏（下関市立大学 看護学部設置準備室 教授/NPO法人 福岡子どもホスピスプロジェクト代表理事）を話題提供者にお迎えし、コミュニティの中での様々な立場にある方々との共創による看護の実践知の発展について検討しました。

＜ワークショップ2＞

身体的な健康問題を抱える患者を
チームで支えるためのシステム構築

慢性疾患と共に生きる人が病状をコントロールするためには、患者自身による療養生活の管理が必要ですが、その継続は難しいことが多く、看護師による療養生活支援が必要です。CKD（慢性腎臓病）看護外来を立ち上げ、患者への療養生活支援を継続されている井上智恵氏（京都済生会病院 慢性疾患看護専門看護師）に、これまでの活動をご紹介いただき、多職種や地域を含めて行う患者支援システムの構築に関して検討しました。

＜ワークショップ3＞

当事者・家族の知恵を集めて
高次脳機能障害と向き合う

高次脳機能障害は、外見上わかりにくいことや、社会的認知度の低さから、当事者は生き辛さを抱え、家族は当事者への対応の難しさや当事者と周囲の人との関係調整の難しさなどを抱え、ストレスfulな状況にあります。この課題に取り組むために、当事者・家族・支援者の知恵と力を結集してパンフレットを作成したプロセスや内容について、瓜生浩子氏（高知県立大学看護学部教授）にご紹介いただき、意見交換しました。



＜ワークショップ4＞

臨床と教育機関で取り組む
新たな看護学実習

看護基礎教育の最終学年の実習において認定看護師と教員が協働した経験をとりあげ、実践知の視点から意義と課題を探索しました。実習を担当した内田雅子氏（高知県立大学看護学部 教授）、窪田美穂氏（高知医療センター 慢性心不全看護認定看護師）、加藤昭尚氏（高知県立大学看護学部 助教）に、学生への学習支援を各々の立場から振り返ってご報告いただき、教育効果やその他の副次的効果について考えました。

＜ワークショップ5＞

卒業後に私が挑んでいる看護実践

卒後4～8年目となる本学の卒業生3名、高村智絵氏（高知中央訪問看護ステーション 訪問看護師）、猪野郁美氏（高知赤十字病院 助産師）、今西清か氏（新居浜市立川東中学校 養護教諭）を話題提供者に迎えました。それぞれのキャリアを振り返りながら、実践において自分が大切にしてきたことや、頑張ってきたこと、その中で自分が直面した困難や葛藤、楽しかったことや得られたものなどをお話しいただき、参加者と共有しました。

総会

同日、12時15分から対面にて総会が開催され、学会員29名が参加しました。議長には学部26期生、森下安子氏が選出され、議題にそって進行されました。

報告承認事項として、令和5年度事業報告（運営委員会、企画委員会、編集委員会、広報・渉外委員会、所属組織についての活動報告）、令和5年度会計決算報告、監査報告がなされ、いずれも承認されました。

審議事項として、学会の名称変更、奨学生の選考案、令和6年度事業計画案（運営委員会、企画委員会、編集委員会、広報・渉外委員会事業計画案）、令和6年度予算案について審議され、いずれも承認されました。令和6年度事業計画では、高知女子大学看護学会50周年記念事業を行うことが決定しました。また、運営委員の欠員に伴う補充について審議され、4名の新委員が承認されました。

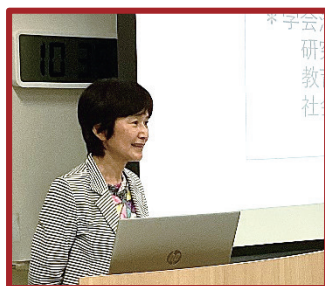
看護開発研究会

看護開発研究会は、高知県立大学看護学部同窓会大学院部会の活動として、2015年度より毎年、高知県立大学看護学会(旧:高知女子大学看護学会)の翌日に開催しています。

本年度は昨年度に引き続き対面開催として、7月21日(日)9:30-12:30に『看護開発研究会2024:看護研究の魅力を語りつくそう!』を行いました。今回は、【基調講演】【演題発表】【グループ交流】の3部構成といたしました。

【基調講演】

中野綾美先生(高知県立大学大学院看護学研究科 特任教授)より、『看護現象の探求と創出の積み重ねから見えてくる魅力』というテーマでご講演いただきました。



中野先生の看護研究の魅力の原点は「卒論」とおっしゃられ、学部教育の中でいかに学部生たちが看護研究のプロセスを楽しめ、そのプロセスを大事に辿ることができるように支援することの重要性を語られました。そして、ご自身の研究活動を振り返りながら、質的研究デザインを用いたデータの意味を掴むおもしろさに魅了され、多くの質的研究に取り組まれるとともに、その魅力を修士・博士課程の院生たちのみならず、臨床の場で働く看護職と取り組む研究活動においても伝授いただきました。さらに、野嶋佐由美先生(高知県立大学大学院看護学研究科 特任教授)との研究活動において、量的研究デザインや介入研究にも取り組まれる中で、“明らかにしたいこと”に努力を惜しまない研究者としての姿勢を学ばれるとともに確固なものとなされ、研究代表者として研究対象を拡大しながら、看護職に活用される「知」を創出されてこれたご経験や思考過程を惜しみなくお話しいただきました。そして、研究は“点”であり、その“点”を探求することに価値を置くこと、研究を終えるとその“点”は“石”となり、新たな関心のある“点”を探求することの重要性、学会活動等において得られた「知」を社会に還元する重要性についてもご示唆いただきました。

【演題発表】

博士後期課程を修了された2名の方々に『博士論文における研究方法の開発-困難な課題と工夫』についてご発表いただきました。

川本美香氏(令和3年度修了生)は、人と場所の情緒的な結びつきの概念「Place Attachment」(以下、PAと記す)を用いて、保健師のケアの中にPAに基づくケアがあるのかという問いを立てて丁寧に概念を検討しながら、中山間地域に暮らす高齢期にある住民のPAを質的研究デザイン(民俗学的手法)を用いて明らかにする研究に取り組まれました。「知らない地域」に入らせていただく“私”の立ち位置やデータに対する感受性を高めるだけでなく、研究者としてデータを収集する揺るがない芯も培いながら、研究に真摯に取り組む続けることの困難さや地域に入り込むタイミングの吟味などについてお話しいただきました。課題に直面した際に研究活動を続けていく気持ちを支えたものとは、地域およびデータに入り込むことで感じる「ワクワク感」であったことも教えていただきました。用いる概念とともにフィールドに入らせていただく地域住民が歩んできた歴史と研究者の受け入れ、ゲートキーパーの役割に敬意を払い探求していくことの重要性をご示唆いただきました。



竹内千夏氏(令和5年度修了生)は、ケアの継続性に焦点を当て、退院支援において埋もれていると考えらえた回復期にある高齢脳血管疾患患者への病棟看護師によるシームレスケアの実態とその構成要素や影響要因について、量的探索的研究デザインを用いて明らかにする研究に取り組まれました。シームレスケアの明確な定義がない中で、量的研究であるからこそ明確にすることに根気強く取り組み、質問紙を作成するプロセスを丁寧に行われていました。本調査において2か月で300件ほど研究協力へのお願いに電話をかけ続けられた中で、対面ではない研究方法であっても相手を尊び、協力を得ていくことの重要性をご示唆いただきました。また、協力してくださる方々がいらっしゃることが研究の継続性や意義を確認する上でモチベーションになることを教えていただきました。



【グループ交流】



【基調講演】【演題発表】も踏まえて、自由に意見交換を行うグループ交流を行いました。5グループに分かれて、お互いに関心したことや考えたことをシェアしたり、現在研究活動を行う中で気がかりに感じていること等が語られました。今後もしっかり交流できる時間の確保に努めたいと思います。

約3時間という限りのある中で、博士後期課程修了生・在学生、博士前期課程修了生・在学生、教員の42名の参加者とともに、とても有意義な時間を過ごすことができました。

次年度も多くの皆様のご参加をお待ちしております。

ご寄付をいただいた方

下記の皆様より寄付をいただきました。
誠にありがとうございました。
(敬称略 令和6年10月25日現在)

西山純子様(33期生)
山田 薫様(26期生)
岡田漢子様(7期生)
中島紀恵子様(4期生)
佐竹久子様(4期生)
田中英美江様(15期生)
他匿名希望

看護学部・看護学研究科の活動

看護学部では、毎年、各専門領域ごとに卒業生、修了生、また地域の専門職者の方々と学びを共有する場として看護相談室を開催しています。
今年度の予定が決定しています。
ぜひ、ご参加ください。
高知県立大学のホームページにも詳細が掲載されていますので、ご覧ください。



現在、2021年3月から2024年3月の卒業の皆さまにアンケート調査の依頼を行っています。お手元に届いていない方がおられましたら ozawa@cc.u-kochi.ac.jpまでご連絡ください。ご協力をいただけますようお願いいたします。

高知県立大学看護学部

看護相談室

看護相談室は、12の専門領域が、高知県の保健・医療・福祉に従事する皆様方と共に、ケアの質を向上させることを目的としています。

家族看護学	* 長戸研究室 ☎ 088-847-8708 Ⅰ. ケア検討会 10/29 (火) 18:30~20:30 Ⅱ. リカレント教育 (18:30~20:30) 5/28, 6/18, 7/30, 9/17, 11/26, 12/17, 1/21, 3/4
精神看護学	* 田井研究室 ☎ 088-847-8723 Ⅰ. ケア検討会 6/20(木), 9/19(木), 12/19(木), 3/13 (木) 19:00~21:00 Ⅱ. リカレント教育 未定
がん看護学	* 藤田研究室 ☎ 088-847-8704 Ⅰ. ケア検討会 6/8(土), 1/25(土) 13:00~15:00 Ⅱ. 交流会 未定 Ⅲ. リカレント教育 未定
クリティカル ケア看護学	* 大川研究室 ☎ 088-847-8703 Ⅰ. ケア検討会 6/11(火), 2/13(木) 18:30~20:00 Ⅱ. 交流会 未定 Ⅲ. リカレント教育 未定
慢性看護学	* 内田研究室 ☎ 088-847-8720 Ⅰ. 交流会 7/20 (土) ハイブリッド開催予定 Ⅱ. ケア検討会・リカレント教育 調整中
小児看護学	* 高谷研究室 ☎ 088-847-8614 Ⅰ. ケア検討会 日時未定 Ⅱ. 交流会 7/21 (日) ハイブリッド開催
母性・助産 看護学	* 嶋岡研究室 ☎ 088-847-8707 Ⅰ. ケア検討会 11/8 (金) 18:30~20:00 Ⅱ. 交流会 5/24 (金) 18:30~20:00
地域看護学	* 小澤研究室 ☎ 088-847-8722 Ⅰ. ケア検討会 6/7(金), 6/14(金), 7/26(金), 8/6(火) Ⅱ. 交流会 未定 Ⅲ. リカレント教育 5/10(金), 11/8(金), 12/16(月), 12/19(木), 2/14(金), 3月下旬
在宅看護学	* 川上研究室 ☎ 088-847-8718 Ⅰ. ケア検討会 7/11(木), 2/13(木) 18:30~20:30 Ⅱ. 交流会 9/6 (金) 18:30~20:30
老人看護学	* 竹崎研究室 ☎ 088-847-8705 Ⅰ. ケア検討会 6/11 (火), 11/12(火) 18:30~ Ⅱ. 交流会 未定 Ⅲ. リカレント教育 未定
看護管理学	* 久保田研究室 ☎ 088-847-8714 Ⅰ. ケア検討会 6/14 (金), 10/18 (金) 18:00~20:30 Ⅱ. 交流会 11月で検討中 Ⅲ. リカレント教育 未定
災害・国際 看護学	* 木下研究室 ☎ 088-847-8762 Ⅰ. ケア検討会 未定 Ⅱ. 交流会 未定

寄付のお願い

同窓会への寄付のご協力をよろしくお願いいたします。
寄付金は、同封の振込用紙にてお願いします。ホームページでもご覧いただけます。
ご不明な点はいつでもお問い合わせください。



同窓会では、高知女子大学家政学部看護学科／衛生看護学科および高知県立大学看護学部関係の資料の保存・整理を行っています。資料の古い資料をお持ちの方、歴史的な資料の保存・整理に関心がある方、ぜひ、同窓会事務局または中山まで連絡をください。資料整理のボランティアも募集しています。ご連絡先は下記になります。どうぞよろしくお願いいたします。
(中山洋子)

連絡先 yokonakayama5066@gmail.com
電話 090-2277-3584

編集後記

事務局
〒781-8515 高知市池2751-1 高知県立大学看護学部

ホームページアドレス
高知県立大学
<https://www.u-kochi.ac.jp>
高知県立大学看護学部
<https://www.u-kochi.ac.jp/site/kango/>
高知県立大学看護学部同窓会
<https://www.u-kochi.ac.jp/~kango-og/>

